俎上の魚

きじねこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俎上の魚

【Ｎコード】

Ｎ５１６０Ｋ

【作者名】

きじねこ

【あらすじ】

タチの悪い人物が、自宅に押し掛けてきたお話

時刻が次の日にちを告げて数分が過ぎた頃、今一番会いたくない人物が自宅にまでやって来た。

コンビニ袋を手にしたそいつは、玄関口でニヤニヤするだけ。

「……こんな時間によく来たな」

いかに会いたくない人物でも、訪問客をすぐに追い返すのは子供の振る舞いか、と思考して、仕方ないから室内に招き入れる。

俺の表情は苦虫を噛み潰しているに違いないが。

「相変わらず物がないな、お前の部屋は」

そう宣（のたま）うこいつの部屋はカオスだ。何着もの服と靴で足の踏み場がないほど埋め尽くされているのだ。以前訪れた際には、俺が堪えきれなくて片付けに一日を費やしてしまった程だ。

「ほっとけ！」

通した一室――リビングのカーペットにこいつはさっさと座り込み、コンビニ袋から缶ビール数本とつまみを取り出して、簡易テーブルに並べていく。

「長居する気かよ」

悪びれもせずにこいつはつまみの口を開けていく。

「積もる話がオレにあるんだろ？」

言葉に詰まった。

「……ねえよ、なんにも」

ニヤニヤを引っ込めようともせず、こいつは顎で俺を指す。

「嘘をつくな。オレはその為に来たんだ」

こいつには全てを見抜かれているらしい。俎上（そじょう）の魚（うお）か、と嘆息混じりに俺はこいつの対面へ腰を下ろした。

「一本貰うぞ」

俺は舌打ち混じりに、缶ビールを手繰（たぐ）り寄せてプシュッとプルタ

ブを抉(こ)じ開けた。

「飲む前に言えよ」

対面に座るこいつは、俺から缶ビールを取り上げた。

この話に素面(しらふ)を希望するとは殺生な。

「こんなこと、飲まずに言えるか！」

「良いから言えよ」

声を荒げる俺から缶ビールを遠ざけたこいつは、嘲(あざけ)ることなく、期待を込めたニヤニヤ顔で俺に詰め寄る。

俺の全てを解った上での行動に、思わず涙が出そうになる。

ああ、もうどうにでもしてくれ。

投げやりに俺は言う。

「付き合ってくれ」

俺はきっと真っ赤な顔だ。

「喜んで」

対するオレ女は、俺に被さり、熱烈なキスをプレゼントしてくれた。

「で、いつからオレのことが好きなんだ？」

唇から唇を離すと、ニヤニヤを隠さないオレ女がこう言った。

長い夜になりそうだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5160k/

俎上の魚

2010年10月21日10時21分発行